

## 竹馬ってオモシロイ

### 子どもの森で昔遊び

磐井川河川公園で5月14日、子どもの森(子どもの森実行委員会主催)が催され、訪れた200人の子どもたちがボランティアと一緒に輪回し、竹馬、缶げた、迷路、ロケット飛ばしなどの遊びを体験しました。竹馬は初めてという子どももいて、ボランティアに支えられながら、一步一步進んでいました。

子どもの森は一関世代にかけの橋が主管。昔遊びなどを通じた世代間交流を目的に市内の高校生、学生などがボランティアで参加し38回を数えます。



ボランティアに支えられ竹馬に挑戦する子どもたち

## “江戸の技法”に挑戦!

### グラス・ペインティング

5月3日から5日までの3日間、博物館で「グラスペインティング(ガラス絵)に挑戦」が行われ、子どもから大人まで125人が参加しました。

グラスペインティングとは、江戸時代前期にヨーロッパから伝わった技法で、透明なガラスに裏側から絵を描き、もう片方の面から見て楽しむものです。

参加者は、アクリル絵の具を使い、何度もガラスをひっくり返してできあがりを確認しながら、季節の花や生き物など、思い思いの作品を仕上げていました。



好きな絵をガラスに描いて楽しんだ参加者



にこやかに祝い状を受け取るくにささん(左)

## おめでとうございます

### 佐々木くにささんが100歳迎える

中央町の佐々木くにさんが5月10日、入院先の一関中央クリニックで100歳の誕生日を迎えました。浅井市長が祝い状と記念品、花束を手渡すと、くにさんは「ありがとう」と笑顔を見せていました。家族からはケーキが、病院からは手書きの色紙と「ふるさと」の合唱がプレゼントされ、くにさんの長寿を祝いました。

くにさんは栗原市若柳町に生まれ、故三郎さんと結婚。子ども5人、孫10人、ひ孫は13人います。裁縫が得意だったくにさんは結婚前は裁縫学校の講師を務めるほどの腕前で、娘さんらにもよく着物を縫ってあげたそうです。



得意の演目を競い合った神楽大会

## 伝統の舞、力強く観客を魅了

### 岩手県南・宮城県北神楽大会

第36回岩手県南・宮城県北神楽大会が5月3日、厳美中学校体育館を会場に催され、12団体が伝統の技を競い合いました。岩手県南から宮城県北一帯は、古くから神楽の発達した地域として知られ、合併後の一関市内には約30の神楽団体がそれぞれの地域などで伝承活動を行っています。

この日は、市内から「蓬田神楽保存会」「大木神楽保存会」「牧澤神楽保存会」「一関夫婦神楽」「布佐神楽保存会」の5団体が参加。団体の部では「布佐神楽保存会」が優勝、「牧澤神楽保存会」が準優勝に輝き、迫力ある演技で、集まった観客を魅了していました。



きれいに飾られた室内で祝福される千代さん(前列右)

## これからもお元気で

### 船木千代さん満100歳に

滝沢の特別養護老人ホーム明生園に入所している船木千代さんが4月22日、満100歳の誕生日を迎えました。家族や同園に入所する仲間、施設職員が見守る中、この日訪れた坂本助役から祝い状と記念品、花束を贈られた千代さんは、うれしそうに笑顔を見せてくれました。

千代さんは名古屋生まれ。結婚後は秋田県大仙市で暮らし、9年前に市内に転入しました。現在は車いすでの生活ながら園内でのんびりと過ごし、長生きの秘訣については「好き嫌いなくなんでもよく食べる」と話してくれました。



初参加の大東高商業研究部は大東の特産品を販売

## 感勢よく「いらっしやい」

### 賑わい「ど市」今年で10年

いちのせき賑わい「ど市」は5月6日、錦町水天宮通りで開幕しました。開会セレモニーで三浦栄蔵実行委員長は「お客様と店とのふれあいを大切にしたい」とあいさつ。テープカットやよさこいの演舞などで10年の節目を祝いました。今年は過去最高の75店が出店。野菜や花、海産物や日用品などの店が通りに並び、「おいしいよ」「新鮮そうだね」など、店員と会話しながら買い物を楽しむ人でいっぱいでした。

ど市は8月を除く10月までの毎月第1土曜日、午前10時から午後3時まで行われます。

## 青空の下で健脚を競う

### 一関地域市民マラソン

今年で33回を数える一関地域市民マラソン(社団法人一関市体育協会・市教育委員会主催)が4月23日、狐禅寺の遊水地記念緑地公園を発着点に行われました。大会には小学3年生から84歳までの187人がエントリーし、3キ、5キ、10キの部に分かれて健脚を競いました。選手たちは、快晴の空の下、さわやかな春風を体いっぱい受けながら力走。沿道に詰め掛けた保護者らから盛んな声援が送られる中、ゴールを目指していました。



元気にゴールを目指して走る選手たち

## 交流深め、はつらつプレー

### 車椅子ゲートボール大会

市長杯争奪車椅子ゲートボール東北大会が5月7日、市総合体育館を会場に催されました。今年で15回目を迎えるこの大会に、初参加の福島をはじめ東北各県から13チーム約80人の選手が参加。毎回参加するチームも多く、久しぶりの再会を喜び合う選手の姿も見られました。

試合では見事なスティックさばきでボールを転がし、スムーズにゲートを通させるプレーもあり、場内から拍手が起こっていました。市内からは一関ワークキャンパスチームが参加し、3位に入賞する健闘を見せました。



神経を集中させ、熱心にプレーする選手